

樹齢43年の夫婦木 カラオケ喫茶経営の牧さん（岩崎町）

日進の木・キンモクセイ物語

日進市内で最も古いといえるキンモクセイの一本なのだろう。県道岩藤名古屋線南沿いの岩藤西口バス停近くを通ると、大きく伸びた木を見つけた。

大通りから中に入ると、車1台が通れる幅の細い道が続き、心が安らぐ。

「寒いのによくここまで来てくれたね」。玄関先で牧皎志さん（74）、みのりさん（73）夫婦がやさしく出迎えてくれた。

木の高さは5メートルはある。自宅の2階まで達し、電柱と並んで真っすぐに伸びるさまは勢いを感じさせる。「道路にはみ出すとバスがこするので、横の部分は毎年刈っています。でもご覧のとおり切った枝はたくさん。ごみ出しも一苦労です」と皎志さんは語る。

木は昭和49年、キンモクセイが「町の木」に決まった頃に配布された記念樹。苗木だった当時から数えても樹齢およそ43年という牧家の歴史と歩んできたシンボルツリーだ。皎志さんはシルバー人材センターの会員。週に3、4日、剪定の仕事をして10年になるベテランだ。客の庭でキンモクセイを見ることはしばしばあり、「どんどん大きくなる木

なので皆さん難儀している。木の横を刈るだけでなく、中の枝も間引くのです」と剪定のコツを明かす。

もともとの仕事は自動車学校の教官だった。夫婦が50歳を迎える頃に、近くの新岩崎橋西交差点から北小学校に向かう通り沿いにカラオケ喫茶を開店した。歌が大好きなみのりさんがカウンターに立ち、夜は居酒屋に変わる。地元ばかりか名東区や豊田市からも客が訪れ、忙しいときは夫婦で店を切り盛りする。

そんな牧さん夫婦は今年結婚50周年の金婚を迎える。お互いの存在について、みのりさんは「気は短いけど誠実」と、皎志さんは「たまに気

のきついことを言われるけどよくやってくれる」と認め合う。

キンモクセイの木の根元をのぞくと、2本に分かれ、まるで夫婦木のように二人は言う。「人生でいろいろありましたが、孫の誕生が一番うれしかった。いつもお客さんに励まされる感謝の毎日。とにかく元気で動けるようにがんばらないとね」

金婚式ではぜひ夫婦演歌を披露してほしい。（広）



↑昭和49年頃に植えた記念樹を紹介する牧さん夫婦



キンモクセイに関する情報をお待ちしています。秘書広報課(0561-73-3149)

笑顔



そして、未来へ

クレパス同好会（岩崎台・香久山福祉会館）

会が発足してから10年を迎えました。講師の横倉義人さんと、メンバー10人が月に2回、岩崎台・香久山福祉会館の工房室に集まり、年1回開かれるクレパス画の作品展に向けて楽しく活動しています。

同会館に隣接する水晶山緑地の四季折々の風景が、スケッチの題材となることもあります。

